

不思議ふしぎ!?

相撲と雷の意外な関係？

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都好きを大好きに



あれよと言う間にすぐ六月。一日の午前四時、北野天満宮境内の火之御子社では雷除大祭が厳修されます。限定授与されるお守りが有名ですね。

この雷様、実は道真公ではありませぬ。道真公が神さまになる以前からここにお祭りされていた「北野天神」という火雷神(雷の神様)です。

怨霊と化した道真公が雷となつてその怒りを示したと思われていますが、事はそう単純ではありません。皆様は天満宮の境内に相撲の神様がお祭りさ

れていることをご存じですか？

野見宿禰神社といひます。その、出雲の勇者で当麻の猛者、当麻蹴速と相撲を行い、蹴速の腰骨を砕いて蹴り殺したとされる神。実はこの方、道真公の先祖なのです。

そしてもう一つ、聞き慣れない名のお社が境内に祀られています。寛算社といひます。

寛算とは一次史料では確認できないのですが、道真を埋葬した太宰府・安楽寺の僧で、かつて道真とともに雷となり、京都に落ちて石になつたと伝えられ、

近年まで近鉄東寺駅の東側に「寛算石」と称する石が立っていました。

延長八年(九三〇)六月二十六日、清涼殿に落ちて大納言藤原清貴を殺したのは実はこの寛算であるともいひます。

ところでこの六月二十六日。何かの記念日に指定されていますが、ご存じ？

そう「雷記念日」です。鴨長明は道真よりこちらを採り上げ「六月二十六日は寛算が日なり」と『無名抄』に記してあります。この日、寛算の命日だったり

します。

さらにもう一つ、雷に打たれて死ぬことを何といひますか？

実は「蹴殺」といひます。

相手を蹴り殺した相撲の神様を先祖にもつ道真公が政争の果てに怨霊と化し、道真以前の豊饒を齋す天神が、雷つながらのなかで天神と習合していく。怒りの神と恵みの神が一つになる。

そしてこの怨霊の影には時平ではなく真の黒幕がいたりします。千年の都は実に複雑怪奇な歴史が錯綜しているのです。

(京都学園大学非常勤講師 堤勇二)



雷除大祭が行われる「火之御子社」



三日間のみ授与されるお守り



野見宿禰神社 (境内南西)



寛算社 (本殿北側 末社十二社の東端)